



# 新しい朝

府中市立府中第十中学校

学校だより No.16

令和4年 3月18日

## 式辞

卒業生のみなさん、卒業おめでとうございます。本日ここに、第42回卒業式を挙行できることをとてもうれしく思っています。

みなさんにとって中学校生活3年間のうち丸2年以上は、新型コロナウイルス感染症と常に背中合わせの日々でした。1年生の冬に新型コロナウイルスが世界的に猛威を振るい始め、3月からは学校全体が臨時休校となり、それまで想像もつかなかった状況が現在にまで続いています。この間のみなさんの頑張りには本当に頭の下がる思いがします。本日の卒業式もコロナ禍以前とは違う形となりましたが、卒業生のみなさんが今日卒業することの大切な意味は、この間の状況を踏まえれば、大きくなることはあっても、決して小さくなるものではありません。今日の卒業の節目、義務教育終了にあたり、これまで積み重ねてきた努力を振り返ってみてください。そして今までみなさんを支え、大切に育ててくださった保護者の方に感謝の気持ちを、心を込めて言葉で伝えてください。

コロナ禍で辛抱の連続の中で誰もが不安や悩み、悲しさ、辛さ、悔しさなど様々な思いを抱いたはずです。その時に、なんで自分たちだけがこのような経験をしなければならないのだろうと、たくさんの方が思ったはずです。しかしその思いを経験した分だけ、自分では意識していなくても、みなさんの人間的な成長に必ずつながっているはずです。そしてその際友人同士で支え合ったり、周囲の人の助けを借りたりした経験も、これからの生活の大切な糧になるはずです。

さて卒業期になると、私は毎年必ず思い出すことがあります。それは私が教師になって最初に受け持った学年の卒業式前日の出来事です。ある女子生徒が「先生、このシクラメン覚えていますか」と言って小さな鉢植えを職員室に持ってきてくれました。そこには、小さいながらも見事に、誇らしげにシクラメンの花が咲いていました。その生徒は1年生の時だけ私が担任で、その鉢植えは、1年生の最後の日の帰りがけに教室の後片付けをしていた時、たまたま私の近くにいたので、「クラスも替わるし、よかったらこの鉢持って帰る。」と言って、教室に置いてあった鉢植えを何気なく渡したものでした。一緒に学年を持ち上がったので、その生徒とは言葉を交わす機会はもちろんありましたが、その日までこの鉢植えのことは一度も話に出たことはありませんでした。卒業までの2年間大切に育ててくれたのかと思うと本当にうれしくて、感激しました。この気持ちがそれ以来私の教師として、また人と関わる時の原点、心の支えになっています。真心には誠心・誠意応えていこうと心に誓った忘れがたい出来事となりました。

みなさんも人と接するときや物事に対処するときに、何か意識したり心掛けたりしていることがあると思います。そのことが、人の心を動かしたり、感動や感激を与えたりすることに時としてなります。そして自分自身の心の豊かさにも大きく寄与することにもなるはずです。ぜひ人とのつながりや物事に誠実に当たることを大切にしてください。心が豊かであれば、それだけ幸せな人生、充実した人生を送ることができるはずです。

ところでこれからの社会は (Society 5.0) という新しい社会のあり方が提唱されています。これは、これまで人類が歩んできた社会を、発展の段階によって大きく分けて考えているものです。(Society 1.0) が狩猟社会、(Society 2.0) が農耕社会、(Society 3.0) が工業社会、(Society 4.0) が情報社会で、これに続く新たな社会を指すもので、我が国が目指すべき未来社会の姿として提唱されています。(Society 5.0) の社会は超スマート社会とも言われ、仮想空間であるサイバー空間と、現実空間であるフィジカル空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会という位置づけです。そこで具体的に目指しているものは、全ての人とモノがつながり新たな価値が生まれる社会、イノベーションにより様々なニーズに対応できる社会、AI・人工知能により必要な情報が必要な時に提供される社会、ロボットや自動運転の車などの技術で人の可能性が広がる社会などです。

こうして加速度的に社会全体が変化、発展してきている一方で、新型コロナウイルス感染症の影響が突如降ってわき、世の中が混沌とし先行きが不透明で、それまでの価値観も大きく揺れ動いてしまうようなことにもわかに出現しています。このような中をみなさんは新たな歩みを進めていくことになります。当然、決して平坦な道ばかりを歩むわけではありません。再びまるで予想もしていなかった事態に直面することもあるかもしれません。そのような時に自分の頭で考え、自分の言葉で表現し、自分の力で着実に前進していくためには、自分なりの強い信念が必要です。様々な困難を乗り越え、自らの手で将来を切り開いていってください。みなさんが切り開く社会は、(Society 6.0)になるのかもしれませんが。未来の担い手として大きく成長し、それぞれの道で存分に活躍していくことを期待しています。

最後になりましたが、保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。これからもお子様のよさや可能性を温かく見守ってくださいますようお願い申し上げます。この3年間、ご支援、ご協力をいただき本当にありがとうございました。心より感謝申し上げます。本日卒業する110名のみなさんの今後のさらなる心豊かな成長を通して、一人一人の人生が実り多きものとなることを祈念し、式辞といたします。

令和4年3月18日

府中市立府中第十中学校 校長 芹澤 敏光



## 祝辞

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

保護者の皆様におかれましても、お子様の頼もしい立派な姿に、喜びもひとしおのことと存じます。また、三年間のPTA活動に、ご理解とご協力いただきましたことを、この場をお借りして御礼申し上げます。

さて、新たなスタートを切る卒業生の皆さん。

皆さんは、この府中第十中学校で、日々様々な経験をしてきました。楽しいこと、嬉しいこと、悔しいこと。特にこの二年間は世界的に猛威を振るう新型コロナウイルスの蔓延により、楽しみにしていた行事やイベントが中止や延期、または規模を縮小しての開催など、二転三転する事態になりました。

しかし、そんな状況の中でも人は前を向いて進んで行かなければなりません。悲しいこと、悔しいこと、時には怒りの感情を糧として、支え合って助け合いながら成長できるから、人間は素晴らしいのだと思います。

これからも、皆さんは新しい経験を積み、たくさんの人と出会って行くことでしょう。その中で、様々な選択をしていくことになると思います。もちろん、身近な人の意見やアドバイスには耳を傾けてください。そして、最後に物事を決定するのは自分です。必要以上に人の評価、噂、視線を気にして挑戦することをためらわないで下さい。

アメリカで80歳以上の方を対象に「人生で最も後悔していることは何ですか？」というアンケート調査をしたところ実に70パーセント以上の方が「チャレンジしなかったことを後悔している」と回答しました。

どうか、皆さんは挑戦する心を大事にしてください。その挑戦が、たとえうまく行かなかったとしても、それは経験となり、そういった経験の積み重ねが大人になったときに、皆さんの人間としての強さや優しさになるのだと思います。

最後になりましたが、子供たちがここまで立派に成長できたのも、芹澤校長先生をはじめ、教職員の皆様の熱心なご指導のおかげであります。心より感謝申し上げます。

卒業生の皆さんの、これからの新たな挑戦と、輝ける未来を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

令和4年3月18日

府中市立府中第十中学校 PTA 会長 内藤大輔



■□表彰■□

◇体育優良生徒(東京都体育協会・東京都中学校体育連盟)

3-2 土井 悠哩 さん      3-2 上原 舞 さん

日常生活において率先して体育・スポーツ活動を実践するとともに、生活態度、学習態度、体育的技能、スポーツ精神に秀で、模範となる生徒が表彰されます。

◇優良卒業生(東京都産業教育振興会)

3-2 渡邊 拓海さん      3-2 蛭田 美咲さん

学校生活全般において意欲的に活動し、特に産業に関わる教科である技術・家庭科で優良な成績を収めた生徒が表彰されます。

◇府中市小・中学生人権作文 優秀賞

3-2 鈴木 那歩さん

◇東京都中学校 書き初め紙上展

東京都中学校書写研究会長賞

金賞 3-1 大澤 千里さん

3-2 岡田 龍和さん

2-1 北原 心琉さん

2-3 佐々木 綾さん

1-2 鳥澤 由梨子さん

1-4 吉田 壮寿さん

3-1 高見 優衣さん

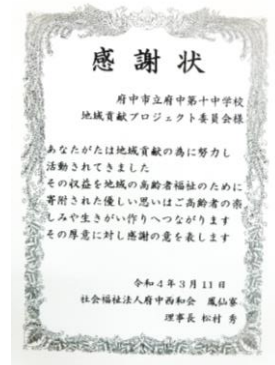
2-3 福島 奈緒さん

1-3 鶴岡 柚衣さん

■□ 地域貢献プロジェクト委員会 ■□

3月11日(金)、地域貢献プロジェクト委員会では今年度の野菜販売等で得た収益金でゲートボールを購入し、鳳仙寮へ贈呈しました。

3年生にとってはプロジェクト委員として最後の活動となりましたが、卒業してからも地域の力となって活躍してください。



鳳仙寮から感謝状をいただきました。

